

未来の夢に向かってかけ昇れ



題字・故 上野慧賢先生
発行所 駒澤大学高等学校
同窓会
正会員数 22,885名
東京都世田谷区上用賀1丁目
〒158-8577 TEL.3700-6131代
FAX.3708-7291
振替口座 0018-6-61881
http://www.komazawa.net
E-mail:dosokai@komazawa.net

同窓会「創立五十五年」 にあたり

同窓会会長 田上 太 秀



本年は同窓会創立五十五周年を迎えます。すでに『同窓新報』でお知らせしている通り、六月十一日(土曜日)に総会、ならびに記念大会を母校で開催する運びとなりました。同窓会創立五十年大会が五年前であったのに、昨年開催されたように思われ、光陰矢のことが実感されます。

この五年間に同窓会はとくに新しい活動を起こしたわけではありませんが、例年通り、母校への助成を徹力ながら続けて参りました。クラブ助成では各クラブから要請された競技用具やクラブ必需品(製氷器や部旗など)、そして楽器を購入したり、また、社会で活躍する同窓生に講演や音楽演奏などをお願いして、駒大高祭に参加するなど、目立ちはしませんが継続的に活

動を続けて来ました。

昨年の十二月二十六日に昭和女子大学人見記念講堂で吹奏楽部の定期演奏会が開催されました。二年連続金賞を獲得したこともあってか、通路にもいつぱいの聴衆でした。玄人はだしの演奏でした。じつは全国大会出場まえにぜひ必要な楽器があるということ、同窓会に要請がありました。高価な楽器でした。この金賞受賞に同窓会がこの度購入した楽器が貢献したのです。感慨無量でした。このように同窓会の助成は十分役割を果たしています。

このような助成は会員諸氏の協力あってはじめてできることです。もちろん卒業時に納めて下さった会費が基金であります。その上に毎年納められる同窓会費によっても、このような助成が継続できるのです。さらなる会員諸氏のご援助をお願い申し上げます。

来る六月十一日には母校を見学がてら、互いに情報を交換しましょう。

(四期)

山積みの課題

校長 浦 敏之



同窓会創立五十五年おめでとうございます。二万を越える会員をまとめる役員の皆様のご努力に敬意を表します。本校が開校した昭和二十三年はまだ戦後の混乱期にありました。諸先輩のお話では開

校当初は個性豊かな生徒の集まりであったとが。当時四歳であった小生には知る由もありませんが、教授陣は大学の先生方が多く見えていたそうであらう。本校の歴史を考えると、この五十五年間は激動の歳月ということになりましょう。諸先輩方は栄枯盛衰の憂き目に何度かあいながらも今日の駒大高を築いてきました。日本全体を考えても、戦後の混乱期を見事に乗り越え、高度成長期を乗り切り、バブル期を迎

えたが、その経済偏重に毒されてしまった。一挙に冷え込められた経済状況を脱却できず、その後遺症に長く悩まされ続けているわけでありませう。近年は経済的な低迷だけでなく、精神的な低迷が多くの陰惨な事件を引き起こしています。

教育界も混迷を続けています。学校現場は指導要領を改訂するたびに机上の空論に踊らされています。めまぐるしい改革の嵐に、変化に疎い学校はこれからの様に生き残るかを見いだし得ないか、改革しきれずにうろろうろとしています。本校にとっても、問題は山積しています。校地の狭さ、老朽化した校舎の建て替え等々はどう解決するか。日々の学習活動を活性化する

にはどのような方策がいいか、種々の大会で好成绩を上げていく部活動の応援、多様化する進路指導・生活指導をどのように効果的に行うか、悩める高校生やその保護者にとどの様に対応するか。本校の英知を集めこれらの諸問題に対処しているところです。

校長職を拝命して二年目が終わろうとしているが、「卒業してよかったと思われれる学校をつくる」ために本校を卒業したものの責任としてさらに努力せねばならないと考えています。卒業生の皆さんの貴重なご意見も参考として行きたいと思っております。この記念式典を期に皆様が母校のありように関心を持っていただければ幸いです。

(十三期B組)

同窓会・創立55周年 記念総会・式典

日時 平成17年6月11日(土)
午後4時より
場所 母校・小体育館
会費 無料
別刷パンレット・参照

春高バレー出場



つかんだ夢切符

熱い応援を期待!!

三月二十日

国立代々木競技場第一体育館

夏のコンクールを 振り返って

吹奏楽部・主将 三年J組 笹川理恵

今年(十六年)のコンクールは、去年の十一月二日、全国大会の専門館で「ゴールド金賞!」を聞いた時から始まった。当時二年生だった私は、三年ぶりの全国大会金賞という喜びと同じくらい、来年の自分達の年に対する不安と焦りでいっぱいになった。しかし、私の中で「来年

も絶対に全国金賞をとる!」という決意が強く固まった。それは三年生三十一人が同じように強く誓っていた。一月、私にとって、そして三年生にとって高校最後となるコンクールの自由曲が発表された。「ローマの祭」。一瞬、自分の耳を疑った。大曲であり、難曲である。もちろん吹奏楽の世界でこの曲を知らない人などいない。「力のない私達が、この曲を仕上げる事ができるのだろうか...」不安で押しつぶされそうだった。

六月に入り、本格的にコンクールに向けての練習が始まったが、すべてがうまく進まなかった。目の前には全国大会しか見えない。けれど技術が追いついていかない。そんな空回りが幾度となく続いた。そんな中、私は吉野先生のある言葉を思い出した。「いきなり日本一になると思うな。まずは、駒大高校の数ある部活動の中で一番になって、次に世田谷で一番、次に東京で一番、それから日本一を目指して行け!」。私は大切なものを忘れていたことに気付いた。目標を口で言う事は簡単である。何かをしたと願う事は誰でもできる。でも一番肝心なのは、そこに歩き着くまでの練習過程を怠らず、メンバー全員で一丸となつて作り、築き上げていく事なのだ。誰一人として後悔を残させない、一瞬一瞬の時間が全員の力になるようにしたい。そこから、本当に地道な努力が始まった。

2年連続“全国大会”金賞受賞

七月の夏期強化合宿は本当に辛かった。毎日のように先生やコーチから、「今年を力

57回 駒大高祭



文化講演会に出席して

四十六期A組 三遊亭 王楽

(家人一夫)

月日の経つのは、とてつもなく早いものです。私が此の学校を卒業させて頂いたのが、一九九六年の春(何と九年前!!)で御座居ました。落語家になって三年半経った昨年の十一月に、まさか自分の母校で有る、超エリート高校、駒澤大学高等学校で落語をさせて頂けるとは、夢にも思いませんでした。正に文字通り「故郷に錦を飾る」事が出来

で、ピンクの着物を着て座っている三遊亭好楽と云う男... 否、と云う師匠なんです。私が物心付いた時から、父親は「笑点」に出て居りまして、私は、それが嫌で嫌で仕様が無かったのです。別にそれが関係してイジメに遭ったなどと云う事では無いんですが、元々滅茶苦茶恥づかしがり屋の性格だったので、小・中学校の頃は「何故ウチの父親は普通のお父さんとお父さん違うんだろ...」とどうしてテレビであんな馬鹿々々しい事を平気で云うんだろ...と云うた事を、常に思っていました。ですから授業参観等が有っても、どんな事があるかと、父親の来る事は阻止しました(笑)。中学を卒業して高校に入学して嬉しかったのが、周

が弱い!」、絶対に予選落ち!」などと言われ、その度に悔し涙を流しながら三年生で真夜中までミーティングをくり返した。計り知れない程のプレッシャーが私達にのしかかっていた。力不足なのは分かっている。だから、ひたすら努力した。

私は、高校生になって初めて落語を聞きまして。落語といつても、私は、その意味を知らないの、普段テレビで見ている「笑点」の様なものなのかと思っていました。実際、落語を生で聞いてみて、落語は一人の人が物語の様なものをお客さんに演技を交えながら話す、という事がわかりました。

八月の予選通過、そして九月の都大会では東京代表に選ばれ、予想を遥かに越えた展開だったが、私達はその過程に確信を持っていた。そして全国大会、「ゴールド金賞!」。

この経験を通じて学んだことが私を大きく変えた。そして、力となり、自信となった。最高の先生と最高の仲間と巡り会い、そこから学び得た事を、私は一生忘れないう。

落語を聞いて

一年F組 島田優美

内容はわかりませんでした。友達に「今の話ってどういう意味だったの?」と聞いて初めて内容がわかりました。話の内容を理解していた友達はとても楽しそうに落語を聞いていました。

私は、話の内容を理解できていなかったもので、落語の楽しさがわかりませんでした。今思うと、とても悔しいです。落語は日本の文化なので、私もその文化を楽しめるようになりたいです。

だから私は今度落語を聞く時には、友達の様によく聞けるようになりたいです!

退職に際して

教諭 山田 勲

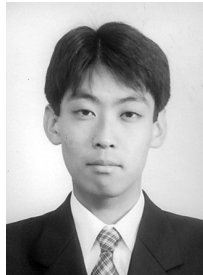


私が駒大高校に縁あって奉職したのは、日本が高度経済成長まっただなかの東京オリンピック景気の一九六四年(昭和三十九年)だった。オリンピック開催準備の過程で、諸需要が増加したためにおこった好景気の年で、東海道新幹線や高速道路などの建設を中心に発展し、入学生も増加した時期でもあった。

奉職時は、不安と心細さがあったのは事実だが、良き先輩や同僚、特に、良き生徒に出会ったことで不安や心細さがなくなり教育への愛着が湧いてきたことが、四十一年という長きにわたって奉職できたことの最大の理由だと思う。

平均点や国際順位の低下も問題だが、それ以上に気になるのは、日本の子どもたちの学習に対する意欲や興味の低下、学習習慣の欠如が浮き彫りになったことだ。

この度、自分の教員生活で初めて送り出す生徒の卒業にあわせて、自分自身も駒大高校を卒業させていただくことになりました。



駒大高校の五年間

教諭 菊地 信吾

様々な学校行事を担当させていただき、分掌の諸先輩方から、ことある毎にアドバイスいただきながら、学校の仕事や仕組みを少しは身につけることができたと思います。ようやく仕事を覚えて、これから駒大高校の発展に寄与できると思っていた矢先のわがままで、大変申し訳なく思っております。

五年間を通じて、一番学んだことは、いろいろな先生(生徒も)が集まって学校は成り立っている。ということかと思えます。学校は恐らく、同じ人種が集まっています。

宮澤栄作先生を悼む

教諭 広谷 五郎



本校元教諭であり、駒澤大学名誉教授でありました先生が一月七日午後十時三十分、七十二歳という若さで永眠されました。

昭和二十三年四月本校の保健体育科の教諭として奉職され四十年三月迄、在籍されました。この間、学校業務は無

地域スポーツの普及発展にも強くその力を発揮されました。特に(財)世田谷区スポーツ振興財団理事長として多年に渉り貢献されその功績に

駒大高校 交通案内図

◇東急田園都市線「桜新町駅」下車徒歩15分
◇小田急線「千歳船橋」下車「用賀駅」行バス10分

会員計報

- 田村明夫(一期) 平成十六年八月十二日
- 田村重敏(二期) 平成十六年
- 友清辰巳(一期) 平成十五年四月
- 小形恭且(五期) 平成十五年一月六日
- 五十嵐達(六期) 平成十四年四月二十一日
- 山中 暁(十五期A組) 昭和六十二年一月十二日
- 六戸俊一(十六期G組) 平成十六年六月
- 小倉啓一(十六期I組) 平成十四年十一月
- 山内光男(十七期F組) 平成十五年一月八日
- 高本満則(十八期I組) 平成十五年一月十一日
- 田代久夫(十八期I組) 平成十五年一月十一日
- 萩原博幸(十九期B組) 平成十六年三月二十七日
- 秋田順人(十九期F組) 平成十一年
- 工藤智敏(二十期G組) 平成十五年四月二十八日
- 仁藤一美(二十二期G組) 平成十四年五月十九日
- 山本英明(二十三期G組) 平成十四年十一月三日
- 白井弘文(二十六期B組) 平成十五年四月十六日
- 青木俊輔(五十一期J組) 平成十五年六月三日
- 関口朋行(五十二期H組) 平成十六年五月
- 藤田 隆(五十三期A組) 平成十六年十二月十二日
- 鈴木一彰(五十三期I組) 平成十六年十月六日

会員だより

わの広場

私の人生と切手

一期 山下 禎二



私が始めて切手との出会いは一九四五年(昭和二十年)中学の入学祝に父より五円を貰い、通り掛りに偶然に入った文房具屋で封筒に入った切手を購入し、空襲で家は焼かれたが奇跡的に切手は防空壕に入っていた為、焼失せずに済みました。戦後の混乱期をへて、十数年後、荷物を整理していたら偶然に、その切手の入った封筒と再会し、その切手掛けて若干の切手の購入を始めましたが、その後切手への執着する余裕も無く、仕事人間に徹した人生を歩んできました。私は六十九歳にて持病の悪化で仕事を引退し、時がたつにつれ、健康も回復し、毎日の生活のリズムが単調なので、ボケ老人に成ってしまうのではと、不安を感じました。自分の人生と社会生活との関わり方を考えて、実践に行動を起こす事にし、趣味の団体に加入する事により、人との関わりを持てると思い、財団法人日本郵趣協会、アメリカ切手部会に加入しました。団体加入当時、二〇〇一年八月に東京ビッグサイトで、国際切手展が開催され、

ちをしている光景が見られます。切手の種類も多く発行され、日本と同じく乱発気味の問題になっていきます。郵便物の配達手段の歴史の、発展過程を勉強する事も興味のある問題だと思います。趣味のサークルの良さは、社会的地位も全く関係なく、同等の立場で活動が出来、マイペースで楽しめます。歴史、文化に就いての知識も自然に習得され勉強にもなります。仲間には各分野の専門家・博学者も居りますので、即、聞き知る事が出来ます。趣味の世界に入ると感じたことは、奥が深く無限の探求の世界です。同窓生諸氏で使用された封書、葉書、絵葉書、切手等ご不要な物がありましたら是非、ご協力ご一報下さい。私は生涯、切手と向き合っていて人生を楽しんで行きたいと思っております。

連絡先

〒二五一〇〇三三
藤沢市片瀬山二一
〇四六六 五〇 五七六一

「意味ある偶然」

川崎市精神保健福祉センター
(社会福祉士・精神保健福祉士)
文教大学人間科学部非常勤講師
三十一期一組 山中 達也



「五九九番」。忘れもしない、駒大高の受験番号である。小・中学校での成績がとて

悪かった私は、高校受験時に担任の教師から「合格はかなり難しい」と言われていた。それでも駒大高第一志望を他に替えることはしなかった。そして何故かわからないが合格させていただいたが、周囲からは「偶然」と言われ続けた。しかし当時の私には合格すれば偶然でも何でも良かったし、とにかく掲示された合格発表に自分の番号があり、それまでに経験したことのないほどの嬉しい気持ちです。あれから四半世紀も過ぎてしまつた。そんな私は現在、精神保健福祉領域のソーシャルワーカーとして対人援助という仕事と「アルコール関連問題に関する施策の構築」や「援助者への援助」をテーマとした研究と実践を積み重ねている。さらに、大学では非常勤講師として、現場の援助者であるという特性を生かしながら後に続く援助職を育成する業務に携わっている。そして今、偶然にも用賀に移り住んでいる。つい日常生活のあわただしさに流されてしまつたり、人やもう一人の自分と比較し、競争し、自分を見失いがちに陥つてしまつたとき、ふと部屋の窓を開けると懐かしい駒大高の校舎全体が見える。そこはまさに私にとっての「意味ある偶然」が始まつた場であり、私が今ここに存在している原点なのかもしれない、と感じさせてくれる。これからも、意味ある偶然の積み重ねの中で存在し、生かされている自分を実感しながら、年齢を重ねていきたいと考えている。

前向きに

五十二期F組 宮本由紀子



わたしは高校を卒業した後、専門学校に進学し、その在学中に国家公務員試験に合格しました。現在は某独立行政法人に事務官として採用され、勤め始めて一年が経とうとしています。

最初はなかなか環境に慣れることができず、五月の始めにはすっかり憂鬱になり体調も崩してしまいました。そんな状態を六月まで引きずつてしまい、毎日のように自分のこの仕事への適性を考えていました。最近やっと落ち着いて仕事に把握できてきているところです。

学校では、机に座ってれば先生方が必要なことは全て授業で教えてくださっていました。しかし仕事はそうはいきません。上司や先輩は、わたしが何が分からないのか

分らないため、分らないことがあれば自分から聞くことができません。独断で仕事はできません。人との会話ができません。仕事に慣れないのです。コミュニケーション能力が必要だと言われるのはこういうことなのか、と仕事を始めて間もなく実感しました。

わたしは元々会話をするのはあまり得意な方ではなかった。そのあたりの不安は常にありましたが、仕事を続けていくにつれてそんな不安も薄れていきました。配属されている係の性格上、ほぼ全職員と話をすることが多いため、人と会話が出来ないなんて

て言っていられないのです。必要に迫られたようなところがありますが、つまり、何事も「慣れ」なのです。学校の勉強にしても仕事にしても、数をこなして経験を積んでいくことが重要で、自分次第で自然と上達していくものなのです。その過程で失敗して挫けかけることも多々ありますが、その度に今度は同じ失敗をしないようにしよう、次もまた頑張ろうと思つていきます。そして自分がこの先どのような道を行くことも、明日以降の自分のため、前向きでいる気持ちを保つことは忘れないようにしたいと思っております。

同窓会 ホームページ

アドレス

<http://www.komazawa.net>

同窓会活動をリアルタイムで会員の皆様へ伝達いたしております。概要は以下の様になっております。

- 会員数 役員名 同窓会規則
- 事務局案内 文化活動(文化講演会/ゴルフ大会/クラス会・OB会/クラブ助成)
- 協定施設(人間ドック・保養施設)
- 50周年記念誌 同窓新報
- 創立55周年記念総会 役員総会
- 総会会議日程 母校受験に関して

是非アクセスしてみてください。

なお、随時、最新データに更新しております。

また、ホームページの「事務局案内」に

E-mail: dosokai@komazawa.net

を開設しておりますので、ご意見・ご要望等が有りましたら、メールして下さい。

同窓会



同窓会サイトマップ

- 総務
- ◎金豆給 ◎投票券 ◎同窓会規則 ◎事務局案内
- 文化活動(◎文化講演会 ◎ゴルフ大会)
- ◎クラス会 ◎OB会 ◎クラブ助成
- 協定施設(◎人間ドック ◎保養施設)
- ◎50周年記念誌
- ◎同窓新報
- ◎創立55周年記念総会
- ◎投票総会
- ◎会議日程
- ◎母校受験に関して

私のひみじ ⑩

気象予報士

四十九期G組 藤木 亮



昨年十月に気象予報士の資格を取りました。取ったばかりなので、今は就職活動中の身ですが一日も早く気象予報士として仕事ができる様、頑張っているところです。

高校時代は二年、三年と宮先生が担任でした。駒澤大学への進学を希望し、理数系に進みたかったので迷わず地理学科へ入学しました。大学で地理を学んだ事で、昔から持

っていた天気に関する仕事をしたいという気持ちに火が付き、大学二年の夏に本格的に気象予報士を目指すため、勉強を始めました。途中、予想以上の難しさで諦めそうになった時もありました。しかし、ここで全てを投げ出してしまつたら、今までやってきた事が水の泡になるので、そうなるのは駄目だと自分に言い聞かせてやってきました。その

気持ちは、高校で学んだ仏教や坐禅の精神的な教えが力になったものだと感じています。これから天気を予報するという仕事に就くわけですが、

事前に災害を予測し、被害を少しでも軽減させるという大切な義務もあります。そのため、人の命を預る重要な仕事だと確信しています。情報や根拠が不確定な状況で軽率な事を言ってしまうと社会が混乱しかねません。先日のスマトラ沖地震による津波被害に関しても、地震発生後すぐにもしかるべき対応をすればどれくらいの人々が尊い命を落とさずに済んだのか知れま

せん。日本にも台風や地震などの災害がいつ襲ってくるのか分かりません。スマトラ沖地震が少しでも災害予防の教訓となり、情報伝達網の整備が行われる事を願います。気象の世界は経験が重要なので、塾では数ある天気図類を毎日見る事が大切だと教えられました。仕事に就いてからはもちろん、就くまでも毎日勉強という精神で努力していきたいと思ひます。

気象予報士試験合格証明書
合格証明書番号 5053 番

試験地	東京都	受験番号	310088
氏名	藤木 亮		
生年月日	昭和55年11月2日		
住所			

上記の受験者は、第22回気象予報士試験に合格したことを証明する。

平成16年10月8日

指定試験機関
財団法人 気象業務支援センター

私のお寺 ⑩

神奈川県 光明山・西有寺

五十一期H組 勝川 孝一



月日の立つのは早いもので、卒業してからもう四年が過ぎようとしています。

高校入学時は、剃髪するのがいやで仏教専修科の活動は修めませんでした。が、仏教専修科の顧問であった、鈴木純

行先生には大変お世話になりました。今でも御指導頂いております。また、三年生の時には、法戦式も済ませました。卒業後、駒澤大学の仏教学部に進学し、今春卒業予定の私は、「西有寺の成立とその伝統」という卒業論文を書き終え、現在、最後の試験に挑んでいます。

私の師寮寺である西有寺は、神奈川県横浜市にあり、当時、西区にありました万徳

寺の住職に帰依された、太田治兵衛という方が別荘として用意していた土地を寄付され、神奈川県二宮の慈眼寺の寺号を頂き、万徳寺別院慈眼寺としました。また、遠洲の可睡斎を日置黙仙禅師にゆずられて、島田の伝心寺に隠居されていた西有移山をお呼びして、明治三十三年に入寺して頂き、その時から西有寺と寺号を改めました。西有禅師はその後、一宗公選により大本山総持寺の禅師に選ばれ、七年間留寺にされましたが、石川素堂禅師にゆずられ西有寺に戻られ入寂されました。二世中興蔵六仁大和尚が僧堂とし、現在は私の師匠であり、六世祖学敏明が住職としております。第二次世界大戦の

時に戦災にあい、僧堂を閉鎖してしまいましたが、昭和五十七年三月一日に再開して、現在は専門僧堂となり、毎日修行が修行しております。毎年、十二月四日の開山忌には、閉前や再開後に修行された方々が大勢集まり、法要を行っております。平成八年には、鐘樓堂を建立し、毎年大晦日には、近隣の商店街の方々の御協力で、たくさんの方が除夜の鐘をついています。私は駒澤大学卒業後、福井県にある大本山永平寺へ二年間修行に行くことになっており、いろいろと準備をしているところです。同窓会の益々の御発展と会員の皆様の御健康をお祈りします。

契約保養所の紹介

Welcome! All the Way HOME PAGE

Resort House
All the Way
Izu Imaihama

オーナー 白石 健一 (16期N組)
静岡県河津町伊豆今井浜 97-41
0558-34-1323
【交通アクセス】
伊豆急今井浜海岸駅下車 徒歩 10分
東名厚木 厚木小田原 R135 今井浜海岸
E-mail / a-theway@aurora.ocn.ne.jp

ワレノ

とのおのほら

オーナー 尾上 毅 (24期J組)
長野県小県郡真田町菅平高原
0268-74-2126
【交通アクセス】
JR 長野新幹線上田駅下車
関越道・上信越道上田 IC 真田バイパス経由
http://www.xyj.co.jp/nagano/tonohara/

あぶくほ自然大学

WARERA元気倶楽部

オーナー 進士 徹 (25期D組)
福島県東白川郡鮫川村大字赤坂東野字葉貫 57
0247-48-2045
【交通アクセス】
JR 東北新幹線新白河駅下車 徒歩 10分
東北道白河 IC R289
常磐道那珂 IC R118
http://www2.ocn.ne.jp/abukuma/
E-mail / abukuma@basil.ocn.ne.jp

開眼供養

教諭 鈴木純行



大遠忌の年、中国天童寺拝堂を記念して宗内生OBから贈呈された、観世音菩薩、文殊菩薩の開眼供養が営まれた。安置されてから三年、正式に開眼されずいたが、この度、第二回となる中国天童寺拝堂実施にあたっての事前説明会を機に、宗内生師僧の方々に随喜を頂いて厳修された。

弘誓の願は深し薩埵の身十方国土刹塵々
慈舟常に棹す湖東の浦
煩惱海中に法輪を転ず
元教諭、大山定隆師が法語を肅肅と誦まれた。道元禪師

開眼報告

平成十五年

十五期H組

(河村光司先生)

一月十八日(日)

桜田門「法曹会館」

十五期H組のクラス会は河村前校長がクラス担任をして下さった中では第一期の卒業生です。昨年に続いて開かれました。

宗本保徳君、眞正夫君が幹事として活躍し、今回からは卒業の時にはクラスは違っても、在学中に河村先生の授業を受けていた人や、同期の友人も歓迎ということになりました。クラス会の名称も駒澤大学高等学校一五会(いちごかい)に決定。永久幹事として宗本君が選出され、眞君の協力を期待しているとの

平成十五年

ハンドボール部

(田中隆一先生)

二月九日(日)

「母校・和室」

テニス部・男子

(中島勝彦先生)

十二月二十七日(土)

用賀「和民」

平成十六年

剣道部

(朝内賢光先生)

一月十一日(日)

「母校・修道館」

剣道部恒例の新年稽古始め、新年会を兼ねたOB選手権大会が修道館に於いて行われた。まず稽古会が行われ高校生三十八名がOBにかかり、そしてOB同士の稽古、その後、OB選手権、今年は特別会員コーチの永津英人が優勝、二位、松浦慎(七段)三位、加藤喜一(七段)・久世義雄(五段)であった。現在、七段が九名、六段が十五名を数え、それぞれの連盟で活躍している。

平成十六年

五十期K組

(小林明子先生)

二月二十五日(水)

渋谷「轟(Todoroki)」

五十期I組

(浜田敏明先生)

八月二十七日(金)

用賀「養老乃瀧」

毎年恒例の五十期I組同窓会を行いました。

高校を卒業して、はや五年スーツ姿の友人を見ると時の流れをかんじます。今回の場所が「用賀」ということもあり、いっそう懐かしさを感じました。昔話や近況を語り合い、盛大に盛り上がりました。

報告(葉田知美)

OG会 開眼報告

ハンドボール部

(田中隆一先生)

二月二十八日(土)

「母校・和室」

本年度活動計画を確認し、懇親会に移り、現役時の気分に戻り、なごやかなひと時を過ごした。

代表(音五沢啓一)

卓球部

(横山 汪先生)

四月十一日(日)

「母校小体育館・和室」

会長以下、二十名、午前中現役・OB合同の練習。午後トーナメント試合。その後、和室にてOBのみで懇親会。大いに盛りあがる。

報告(横山 汪)

ラグビー部

(玉置和夫先生)

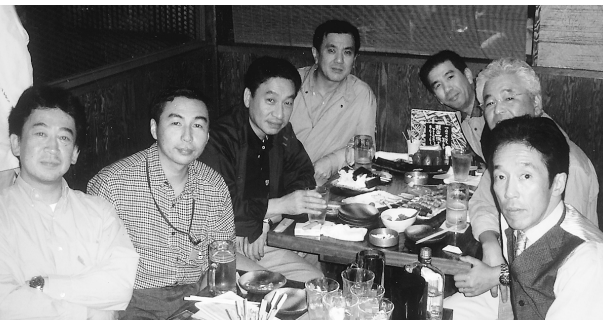
七月十一日(日)

「駒大玉川グラウンド」

去る七月十一日二子玉川グラウンドにてラグビー部OB会が開催されました。今年も、我が駒大ラグビー部も早創部二十周年。そしてこの節目の年を祝うかのようにもいつも使用している駒大グラウンドが人口芝になりました。

OB、OGものめずらしさに、多数集まり人工芝の上で芝の感触を確かめるかのようにはしゃぎまわっていました。肝心の試合のほうですがOBは例年は怪我のないようにおそろおそろプレーしていましたが今年は底力を発揮し快勝。

ゲーム後は、各OBから現役に激浪の言葉、そして主将、



副将からの今年にかける熱い意気込みを聞き、あらためて二十年の歴史の重みを感じ、そして今後の駒大高ラグビー部にも期待がもてること確信しました。

その後は、渋谷へ会場を移し、二十年式典を行い、創部のいきさつや先生、先輩後輩同級生の思い出をかなり楽しく語り、二十一、三十周年位には、東京に駒大高あり!と名をはせるだろうと期待を込めながら、二十年の式典を終えました。

報告(葛西 功)

校友会総務局

(幸前芳孝先生)

十一月三日(水)

用賀「とり鉄」

卒業後、丸三十が過ぎ当時副会長を務めていた栗山氏の御息女が今年母校に入学したのを機に、当時の役員が顔を揃え、旧交を温めた。

仕事の都合で参加できない者もいたが、今回は全員参加できるよう連絡を密にとっていきたい。

OG会の幹事さんへ

OG・OG会の幹事さんへ

同窓会では同窓生の親睦・交流を目的に、クラス会やOB・OG会の開催に一万円の助成をおこなっています。

詳細や申込は事務局の高木までご連絡下さい。多数のご利用お待ちしております。

事務局より 事務局員の募集

同窓会では、会員相互の親睦・交流や、母校の発展に寄与するため様々な活動を展開しております。同窓会活動に参加していただる方、事務局の高木までご連絡下さい。お待ちしております。

駒大高祭・文化公演会 出演者募集

同窓会では駒大高祭で「文化公演会」を毎年(十一月二日)開催しています。

「文化公演会」は在校生を対象に実施し、様々な分野での同窓生の活躍は在校生の心の中に深く刻まれ、喜ばれ好評を得てまいりました。そこで、公演者を募集したいと思えます。自薦・他薦は問いませんので、是非、同窓会事務局の高木まで、ご連絡下さい。ご協力をお願いいたします。

チアリーディング部 創部十周年

(第五代・主将)

五十二期C組 菅 莖 めぐみ

私は今回CIPHER(サイファ)からのお出で(笑)十周年記念パーティーに、駒澤大学チアリーディング部として参加させていただきました。高校からチアリーディングを始め、今年で六年目になります。私が大学で続けようと思ったのも、高校でチアリーディングという競技に出会い、楽しさ・苦しさ・うれしさなどを味わう事でチアリーディングの奥深さを学び、そして大好きになったからです。

振り返ると、私の高校時代はチアリーディング一色だったように思います。私がまだ一年生でチアリーディングを始めたばかりの頃、先輩方と共にCIPHER創部以来初の準決勝進出を果たす事ができました。しかし、先輩方が引退し、私たちが最高学年になってからは思う様に成績が残せず、悔しい思いばかりを



してました。この年、土田先生は産休に入られていた為、田中香奈子先生と二人三脚で日々練習に明け暮れていました。その結果、私達が引退になる大会で、夏の本選出場権を獲得する事ができました。日々の努力が報われ、大きな喜びに変わった瞬間でした。

大会出場以外にも野球応援や駒大高祭、新入生歓迎会など、様々な思い出があります。そしてそれらを通して学んだ事は、チアリーディングとは人を必死に応援しよう、元気づけてあげようという「気持ち」が最も大事だということです。

春の高校バレー全国大会出場！



高校で学んだこれらの事は、現在の私のチアリーディング活動にも十分活かされています。駒澤大学チアリーディング部として、CIPHERがどんどん成長し、たくましくなっていく様子を間近で見ることができてとても嬉しく思います。また十周年という節目のパーティーに出演する事ができて、本当に光栄な事でした。高校を卒業して以来、何年かぶりに先輩や後輩、コ

チの方々にお会いする事ができて本当によかったです。皆さんにお会いして、熱かった高校時代を思い出しました。今度はまた十年後の、創部二十周年パーティーで皆さんにお会いできる事を楽しみにしています。CIPHER創部十周年記念パーティーという素晴らしい会を開催して下さい。皆様、本当にありがとうございます。

若さでアタック！

監督 戸田 光 信

第三十六回全国高等学校選抜優勝大会(若さでアタック春の高校バレー)が三月二十日(日)から開催される。昨年度に東京都新人戦が行われ、予選のシード権を見事に獲得し、今年の一月十六日(日)、二十二日(日)と二日間、「春の高校バレー」東京都予選会」が行われました。全国大会には、三百校ある東京都の高等学校の中から勝ち上がった上位三校しか出場できず、高校生のバレーボールプレーヤーは、「春高バレー」出場を目標に日夜練習に励んでいます。三百人の大応援団に支えられ、最終代表決定戦では東洋高校に

でフルセット、緊張感の続く試合であったが、攻めの姿勢を変える事無く集中し大逆転勝利、代表権獲得となりました。今年の最大の目標は「春高バレー」全国大会ベスト8。この大会の為に毎日の練習では、「試合の為に練習」を日々の練習の目的とし、部員一人一人が厳しい練習に耐え、努力をして成果をだし、全国大会では上位を目指し勝ち上がります。大会期間(三月二十日より開催)国立代々木競技場第一体育館)には是非、応援を宜しくお願いします。保健体育科・非常勤講師 (四十三期D組)

春の高校バレー 都大会

「春高バレー」の愛称で親しまれている第36回全国高等学校バレーボール選抜優勝大会(日本バレーボール協会、産経新聞など主催)の東京大会は22日、世田谷区の駒沢体育館で男女の準決勝、決勝などを行い、男子は東亜学園、女子は共栄学園がそれぞれ優勝した。3位までに入った男子の関東一、駒大高、女子の文京学院大女、八王子実践の計6校が、3月20-26日の日程で国立代々木競技場第一体育館で開かれる全国大会に出場する。昨年、女子の全国準優勝校の下北沢成徳は3位決定戦で破れ、10年連続全国出場は果たせなかった。

東京



平成十七年一月二十三日 産経新聞・朝刊 (東京版)より

駒大高2	252517	東亜学園2	251425	関東一2	252517
211725	1東	232518	1駒大高	212125	1東
洋		洋		洋	

駒大高・戸田光信監督「一番キヤリアがなかったが最後までがんばった。8強入りを目指す」駒大高・遠藤陽平主将「全国大会出場は本当にうれしい。きょうは練習の成果がよく出せた」

東亜学園	東大	一高
関駒	東大	一高

男子

平成十六年度諸会議報告

役員総会

五月二十九日(土)四時
「母校・会議室」
同窓新報三十八号にて報告

常任幹事会

第一回
五月十三日(木)六時
「用賀・司」

顧問の交代について
井上保広教諭が新顧問に就任
平成十五年度・事業報告
案の審議・承認
平成十五年度・決算報告
案の審議・承認
平成十四年度・会計監査報告の承認

平成十六年度・事業計画案の審議・承認
平成十六年度・事業予算案の審議・承認

第二回

十月二十一日(木)
「用賀・司」

「議事」
平成十六年度会計中間報告
文化公演会の実施について審議・決定
「創立五十五周年準備委員会」の報告

役員会

第一回

四月十五日(木)六時
「母校・会議室」

「議事」

平成十五年度・事業報告案の審議・承認
平成十五年度・決算報告案の審議・承認
平成十五年度・会計監査報告の承認
平成十六年度・事業計画案の審議・承認
平成十六年度・事業予算案の審議・承認
文化講演会の内容について・審議

第二回

七月十五日(木)六時
「母校・会議室」

「議事」
クラブ助成(校友会・吹奏楽部)の審議・決定
文化公演会の出演者の審議・決定
「創立五十五周年」準備委員会の報告

第三回

十二月二日(木)
五時三十分
「母校・会議室」

クラブ助成の贈呈式
大型製氷器(校友会)
アルトクラリネット(吹奏楽部)
吹奏楽部・全国大会・二年連続・金賞受賞の祝賀金の贈呈式
「議事」
全国大会・金賞受賞(吹奏楽部)祝賀金の審議・決定
文化公演会の実施報告

第四回

一月十四日(金)六時
「二子玉川・やなぎや」

「議事」
平成十七年度役員総会の日時について審議・決定
平成十七年度の役員改選審議
退職慰労金の審議・決定

同窓新報編集委員会

六月三日(木)六時
「渋谷・星輝」
八月二十七日(金)六時
「母校・会議室」
九月三日(金)六時
「母校・会議室」
九月十三日(月)六時
「母校・会議室」

「母校・会議室」

九月二十四日(金)六時
「二子玉川・やなぎや」

「議事」
十二月九日(木)六時
「渋谷・星輝」
一月二十日(木)六時
「母校・会議室」

創立五十五周年準備委員会

六月十日(木)六時
「二子玉川・やなぎや」
記念品の審議・決定
記念式典審議・決定
一月二十六日(水)六時
「渋谷・星輝」
記念総会・式典の審議・決定

会費・寄付金納入者芳名

平成十六年二月から平成十七年一月末日までに納入された方々です。今回も複数年度分納入された方がいらつしやいますが、詳細は省略させていただきます。

会費納入者(敬称略)

- 〔二期〕水島貞夫・佐藤園枝
- 〔二期〕野中寛一・吉田吉恵・原正男
- 〔二期〕中山重雄・河野純香
- 〔二期〕石井清繁
- 〔三期〕島田寿三・大谷康憲
- 〔三期〕前川豊・鳥澤俊寛
- 〔四期〕田上太秀・谷口武
- 〔五期〕真田治孝
- 〔六期〕堀秀男
- 〔七期〕中森昶會
- 〔十期〕徳山康二・向井三陽
- 〔十一期〕中野東禪・杉山孝
- 〔十一期〕宮本弘賢・美原清
- 〔十二期〕滝口清勝
- 〔十三期〕大塚秀樹・表勝昭

堤案

- 〔十四期〕諸岡泰寿・大澤安幸
- 〔十五期〕菅沼つとむ・松山克雄・前田雅信・池口忠信・宮田利徳
- 〔十六期〕橋智雄・犬塚高明
- 〔十六期〕田中俊三・瀧澤俊勝・丸山晃三郎
- 〔十七期〕野村利明・盛田昇
- 〔十七期〕岩崎孝和・鹿島廣
- 〔十八期〕山崎貴士・関直純
- 〔十九期〕秋成知道・多田豊
- 〔十九期〕岡部博文・塩入基臣・加藤秀宣・脇田正治・井上猛・青隆文雄
- 〔二十期〕星野隆光・荒井伸夫
- 〔二十二期〕深谷吉裕
- 〔二十三期〕森下晃州・伊藤良一・鈴木真・栗山春彦・木村一
- 〔二十四期〕町田季実彦・水

平成十七年度(五十五期)新幹事です、よろしく、お願い致します

お願い致します

- 常任幹事
齊藤典明(A組)
普原麻未(E組)
高橋俊幸(F組)
吉松康太(F組)
石井祐貴(G組)
藤澤裕太(H組)
日下部徳俊(I組)
外間達也(J組)
細井浩一郎(K組)
- 幹事
岩淵正人(A組)
中條淳(B組)
村松三四郎(C組)
富田正夫(D組)

野博文・志田英郎

- 〔二十五期〕高村輝久・佐藤紳司・須貝敏弘・浜崎保春
- 〔二十六期〕尾澤克広・宮路典行・岩村洋一
- 〔二十七期〕田崎博識・上條晴久
- 〔二十八期〕野原正恵・鳥澤正臣
- 〔二十九期〕飯島秀剛
- 〔三十期〕鈴木久人・長瀬恵則・岡部武・北井敏英
- 〔三十二期〕遠藤広一
- 〔三十三期〕井上誠二・今井誠司
- 〔三十五期〕渡邊嘉孝・須藤昭
- 〔三十六期〕佐枝浩孝・田中栄一
- 〔三十七期〕猪俣恭幸・内田祐生
- 〔三十九期〕岡田実智稿
- 〔四十期〕羽場敬仁・高橋淳史・中西和宏
- 〔四十一期〕松本一郎・原田寿一・田中勝也
- 〔四十三期〕野村利和・田島寛之
- 〔四十四期〕山下大
- 〔四十五期〕岩田草介・市原英典
- 〔四十六期〕松本勇樹(白石)
- 〔四十七期〕桑原亮太郎
- 〔四十七期〕木村修
- 〔四十八期〕長山靖・榎本光男・西脇丈太郎・市原武史・牧野高子・大村慎太郎
- 〔五十一期〕飯河泰明・大村俊一
- 〔五十二期〕内山翠山・山下玄通・光田杏奈・横尾友子
- 〔五十三期〕宮路直樹

寄付金納入者(敬称略)

- 〔三期〕大谷康憲・鳥澤俊寛
- 〔二十八期〕鳥澤正臣
- 〔四十一期〕松本一郎
- 〔四十八期〕牧野高子

旧教職員

- 若月正吾・後藤啓道
- 来馬規雄・千葉義坦

編集局より

会員の皆様
投稿をお待ち
します

八転七起

「夢・未来・家族」私は、今この三つの言葉が好きだ。これからの人生に何があるかわからない。でも、人それぞれ夢をみて想像する事に誰にも憚ることはない。むしろ自分の心の鏡が素直であれば、そこから生まれるものは真実となつて返ってくる。夢もその線上の一部かもしれない。いろいろな過去があつて今があり、そして未来につながつて行く。人は、不思議と悔やむように出来ている。でも、「三人寄れば文殊の知恵」のたとえで友人に相談すると結構暗い気持ちから早く脱却が出来。殺伐とした現実、初心な純愛劇に心打たれる社会現象。やはり、人の本質は変わらない。普遍的な共感と思つ。皆さんの気持ちの原点には、家族の存在が大きいと思ふ。

寄りかかったり、離れたたり、自分勝手に出来た若かりし頃から、逆に寄り付かれ、イライラさせられる立場になつても家族愛は許される。その愛の中には、無上の厳しさ・優しさがあつて当然。

駒大高校同窓会は、創立五十五周年を迎え、この準備を進めている。新たに加入する同窓生諸君、学び舎の三年間を通じて「もしかしたら一生の付き合ひかな」と思つ友と、我が母校の未来と共にいざ歩まんではないか。(あらい)